

## 襖の内部構造

襖の内部構造は、その内部に使う素材によってそれぞれに違いがあります。

下地材に使われているものによって襖の種類には、つぎのようなものがあります。

### ■下地材による襖の種類

- ①組子襖
- ②単板襖
- ③板(ベニヤ)襖
- ④チップボール襖
- ⑤ダンボール襖
- ⑥発泡プラスチック襖
- ⑦その他の襖

#### ②単板襖

簡単に組んだ組子の上に丸太(主としてラワン材)をむいて切り取った0.7mm~1.2mmのごく薄い板(これが単板)を貼った襖ですが、地域によって単板の厚さや組子の本数に多少の違いがあります。糊づけのため骨を柱の曲りに合わせることはできないので、縁をつけて完成したものを下棧などで調整して柱付きを合わせます。

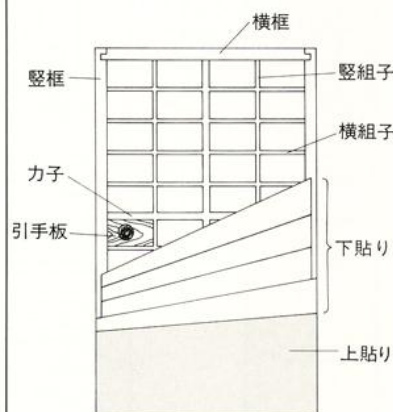
単板襖は、ダンボールや発泡プラスチック系に比べて、寸法物への対応性に劣ります。また、紙貼りの作業ではチップボール芯にはかないません。そのうえ、やや重量感に欠けることがあります。

#### ①組子襖

昔からの襖で、現在でも代表的なものです。一般に組子は縦3本、横11本で組みますが、この見付き寸法は4分(=四分<sup>三</sup>子)が普通です。特に構造を強化したい場合には、カ子、燧板(隔板)を加えることがあります。

普通、組子の上に骨縛り、打ち付け貼り、裏貼り、べた貼り、袋貼りなどの順(18ページを参照)に下貼りを重ねて芯を仕上げますが、骨縛りとべた貼りを合わせて1枚にした紙(漉き合わせ)を使用する場合があります。

この襖は、そりやねじれに強く、伝統的に長く使われてきており、温度湿度への適応性からも日本の気候風土に合ったものといえます。また張り替えの即応性があるということからも、多く使われている襖です。



※下貼りは四遍貼り仕上げ  
(七遍貼りは18ページ参照)

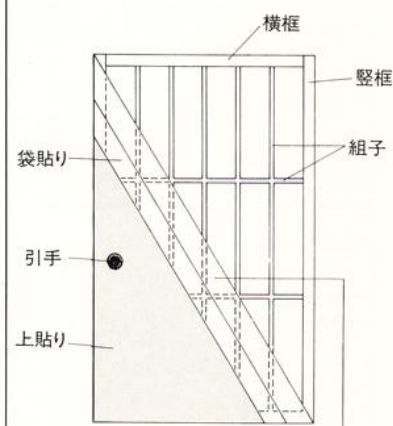
#### ③板(ベニヤ)襖

単板襖と同じ構造で、組子の上に厚めの合板(ベニヤ板)を貼った襖です。

この襖は、ほかの種類の襖に比べ丈夫なことが特長です。ただし、かなり重量があります。最近では、片面は襖紙、片面には壁紙などが貼られた「戸襖」と呼ばれるものもあります。

#### ④チップボール襖

簡単に組んだ組子の上に、骨縛りとべた貼りに代えて、チップボール(チップボードともいう。ボール紙の一種)を貼った襖です。組子襖に比べて組子の本数が少ないのですが、骨縛りやべた貼りの手間がはぶけるためによく使われています。

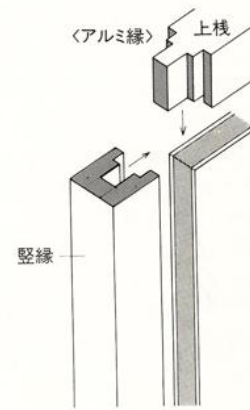
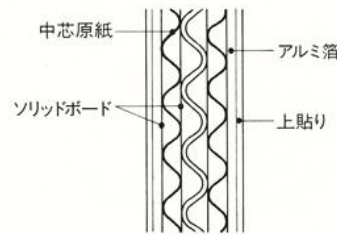


②単板  
③ベニヤ板  
④チップボール

**⑤ダンボール襖**

量産襖の代表的な襖です。3層ぐらいに重ねたダンボールを芯材として、一番上のダンボールの両面には、湿気防止用のアルミ箔が貼られています。

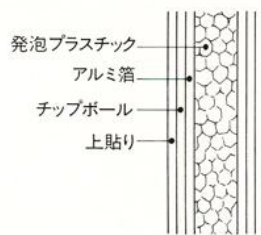
この襖は、張り替えがしにくいという欠点をもっていますが、芯材を機械生産することができるためコストが安くすむという大きな特長もあります。



**⑥発泡プラスチック襖**

プラスチックの発泡体を芯材とした襖です。プラスチックの種類にはスチロールとスチレンの2種類がありますが、スチロールを使っているものが大半を占めています。

この襖はダンボール襖と同じように張り替えの点で他の襖に劣りますが、大量生産ができるのでコストが安く、寸法詰めも自由になるという利点があります。このため、まとまった需要にも応じることができます。



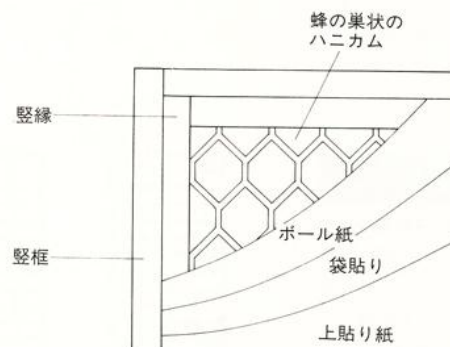
**⑦その他の襖**

**A)ペーパーコア襖**

ボール紙や単板芯の中空のところにハニカム状のペーパーコアを入れることで、強化した襖です。そのため、そりやねじれが少ないのですが、価格は高くなります。

**B)アルミ(縁)襖**

襖の縁にアルミ製の縁を用いた、新しい襖です。単板芯以外の、従来の芯材が使われています。なかでもダンボール芯と発泡プラスチック芯を使ったものが主流です。



### ■和襖の下地骨

一般的に襖の下地骨には杉白太材が多く使われていますが、ときには樅を用いることもあります。また、高級な襖の場合には檜や桐なども使われます。

襖骨はその周囲の縁を框（縦のものを縦框、横のものを横框）といい、中の組子を中子・中組子、その組子の縦のものを縦子・縦組子、横のものを横子・横組子、力骨を力子と呼んでいます。

中組子は、縦3本、横11本を普通として、上級品は横を13本とします。

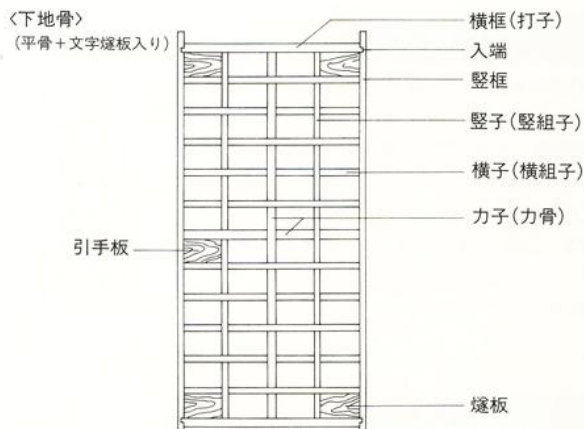
襖の中央の力骨の下の小間には、引手板を付けます。また、襖の歪みや隅じわを防ぐために、四隅に厚さ6mmくらいの燧板を入れる場合もあります。燧板は隅板とも呼ばれます。

#### □さるとり

周囲の框は、図のように襖縁から下貼り紙の厚さ分だけ、片面につき1mmぐらいずつ薄くし、内部にむけて楔形に削ります。このことを「さるとり」といい、仕上がりを美しくするための工程です。

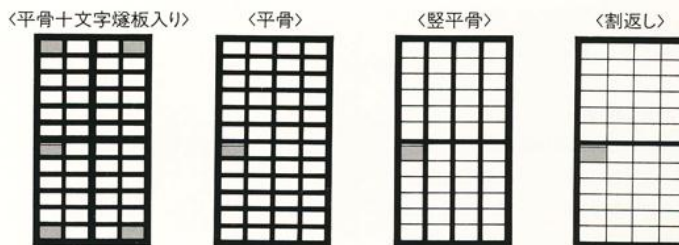
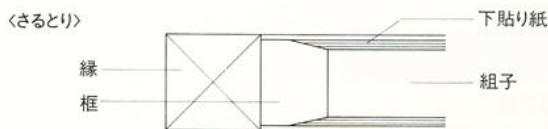
### 襖骨の組み方

襖骨の組み方には、さまざまな種類がありますが、平骨+文字燧板入り、平骨、縦平骨、割返し、四分字、三分字などが、現在使われている代表的なものです。その他公団や会社等の指定された骨もあります。



#### ●骨の寸法

骨の組み方	名称	見付き	見込み
平骨	框	8分(24mm)	5.5分(16.5mm)
	力子	11分(33mm)	4.5分(13.5mm)
	組子	6.5分(19.5mm)	4.5分(13.5mm)
	引手板		4.5分(13.5mm)
縦平骨	框	7分(21mm)	
	力子	6.5分(19.5mm)	・平骨と同じ
	組子	4.5分(13.5mm)	
割返し骨	框	7分(21mm)	
	力子	6.5分(19.5mm)	・平骨と同じ
	組子	4分(12mm)	



- 和襖の下地骨
- 襖紙の貼り方
- 各種襖の特徴

### ■襖紙の貼り方

襖紙とひと口に言っても、その工程にはいろいろのものがあります。つぎに紹介するのは、組子襖の下貼りから上貼りまでの一般的な貼り方です。

#### 下貼り

##### ①骨縛り

組子側に糊をつけて、手漉き和紙・茶チリ・桑チリなどの強い和紙を、障子貼りのように貼る。

##### ②打ち付け貼り

骨が透けないように、透き止めなどのためにすることもある。「骨縛り押し貼り」ともいわれる。

##### ③養貼り

紙を框に糊付けし、ずらしながら重ねて、養のように貼る。「重ね貼り」とも呼び、手漉き和紙・茶チリなどの薄手の紙を用いるが、反古紙を使うこともある。

##### ④べた貼り

紙の全面に糊を付けて貼る。

##### ⑤袋貼り

半紙または薄手の手漉き和紙・代用石州・茶チリなどの紙の周囲にだけ、細く糊を付けて袋状に貼る。「浮け貼り」ともいわれる。

##### ⑥清貼り

紙の全面に薄い糊を付け、襖全体に貼る。ただし、これは上貼りの紙の材質によって行う。

●下貼りには、細川紙・石州半紙・代用石州・茶チリ・桑チリ・漉き合わせなどが用いられる。

#### 上貼り

上貼り紙は36ページのように紙、織物、ビニールに大別される。紙の種類、材質などによって施工の際、糊の濃さを加減するなどの細かい配慮と高度な技術を要する。

#### ●代表的な下貼り工程

※十通貼り仕上げの場合、清貼りなしで袋貼りのみ3回のごともあります。養貼り3回の場合は袋貼りを3回にします。

	上 級		一 般		戸 襖
	十通貼り仕上げ	七通貼り仕上げ	四通貼り仕上げ	三通貼り仕上げ	
骨 縛 り	1回	1回	1回	1回	
打ち付け貼り	1回	1回			
養 貼 り	4回(※3回)	2回			
べ た 貼 り	1回	1回	1回	1回	1回
袋 貼 り	2回(※3回)	2回	2回	1回	1回
清 貼 り	1回				

(七通貼りは、18ページの図を参照)

### ■各種襖の特徴

各種襖には、それぞれ一長一短がありますが、総合的に判断すると、やはり長い歴史の中で育まれ、伝統に培われた組子襖が優れています。まさに日本の気候風土の理にかなった建具といえるでしょう。

◎=優 ○=良 △=可

	耐 久 性	強 度	そり・ねじれ	軽 量 度	価 格 ( コ ス ト )	量 産 度	建 て 合 わ せ	デ ザ イ ン の 自 由 度	上 貼 り の 選 択	張 り 替 え
組子襖(四通貼り)	◎	◎	◎	○			◎	◎	◎	◎
単 板 襖		○	△	○	○	○	△	△	△	○
板(ベニヤ)襖	○	◎	○		△	△	○	△	△	○
チップボール襖	○	○	○	○	○		◎	△	△	○
ダンボール襖				◎	◎	◎				
発泡プラスチック襖				◎	◎	◎				